

～法律、審査基準、判例、ノウハウを交えながら解説！実践的に学べる診断薬特許講座です！～

1名分料金で  
2人目無料

# 日本および海外における 体外診断薬特許戦略

◆日時:2019年6月24日(月) 13:00～16:00

◆会場:江東区産業会館 第4展示室

◆聴講料:1名につき49,980円(税込、資料付)

※会員登録(無料)をさせていただいた方には下記の割引・特典を適用します。

・1名でお申込みされた場合、1名につき**47,250円**

・2名同時でお申し込みされた場合、**2人目は無料(2名で49,980円)**

## セミナーお申込みFAX

03-5857-4812

※お申込み確認後は弊社よりご連絡いたします。

●講師:SK特許業務法人 代表 奥野 彰彦 氏

### 【講演の趣旨】

体外診断薬の特許権の取得および活用については、疾患治療薬とは異なる独特のノウハウが存在する。

また、それらのノウハウは、日米欧中韓台+新興国でそれぞれ違いがあるのが実情である。

そこで、この講義では、日米欧中韓台+新興国での診断薬の特許ポートフォリオをうまく構築して活用していくための注意事項について、法律、審査基準、判例、ノウハウなどを交えながら実践的な講義をしたいと考えています。

### 【プログラム】

- 1 体外診断薬と疾患治療薬の違い
- 2 バイオマーカーそのものを権利化しても無意味?
- 3 体外診断薬の保護形式
- 4 日米欧中韓台+新興国における特許保護適格性
- 5 国によっては、用途発明で保護できるとは限らない
- 6 米国のBilski事件の判例解説
- 7 米国のMyriad事件の判例解説
- 8 米国のPrometheus事件の判例解説
- 9 米国のAlice事件の判例解説
- 10 米国特許商標庁の体外診断薬の特許適格性(101条)の事例集
- 11 コンパニオン診断薬や、医療機器の消耗品である場合
- 12 米国での特許適格性をのために診断装置やソフトウェアを明細書に書き込む
- 13 日米欧中韓台+新興国に通用する体外診断薬の明細書とは?

### 《著書》

2008年

抗体医薬品の研究 開発ノウハウ集2008(共著)

2010年

体外診断用医薬品の開発と承認申請(共著)

2011年

バイオシミラーの開発・承認・販売 支援マニュアル(共著)

2011年

バイオ・ゲノム関連医薬品の研究・開発・製造ノウハウ全集(共著)

各種外科用製品・バイオマテリアルの開発と製造販売承認申請(共著)

2012年

先端医療に関する医療ニーズ/製品開発戦略と臨床で使わなくなる

(であろう)薬剤・製品 予測(共著)

「次世代に向けた抗体医薬品開発の技術と展望」

(共著、監修:熊谷泉(東北大学 大学院工学研究科 教授))

【質疑応答・名刺交換】

## 『診断薬特許』セミナー申込書

会社・大学			
住所	〒		
電話番号		FAX	

お名前	所属・役職	E-Mail
①		
②		

会員登録(無料) ※案内方法を選択してください。複数選択可。

Eメール 郵送

### ● セミナーの受講申込みについて ●

必要事項をご明記の上、弊社へFAXでお申込み下さい。

弊社で確認後、必ず受領のご連絡をいたしまして受講券、請求書、会場の地図をお送りいたします。

セミナーお申込み後のキャンセルは基本的にお受けしていませんので、ご都合により出席できなくなった場合は代理の方がご出席ください。

お申込み・振込に関する詳細はHPをご覧ください。  
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/entry>

個人情報保護方針の詳細はHPをご覧ください。  
⇒ <https://www.rdsc.co.jp/pages/privacy>